

もり じょう
No.40 森 城 (別名 藁谷城) 舞鶴市字森小字池ノ谷他

- ・ 遺構---曲輪、堀切、塹堀、畝状空堀群、土塁
- ・ 占地---山頂
- ・ 標高---80m
- ・ 比高---60m
- ・ 遺跡地図番号---427

この城は白鳥峠の東側を少し南に入った丸山町と、緑ヶ丘団地を隔てる山の山頂にある。現在周辺は開発され、山麓まで住宅が建てられている。

曲輪は北曲輪と南曲輪で構成され、両者をつなぐ帯状の曲輪が西側に二段、東側には三段あるが、曲輪の削平は不十分であるため、臨時に構築された城館であろう。この城の最大の特徴は、畝状空堀群が斜面の60%に及ぶ広い範囲に敷設されていることである。

「嶽家文書」や近世の地誌類では森村城主は高橋左吉あるいは高橋左京とある。橋本左京または橋本左京進をあげる地誌もある。「倉梯村史」は、元亀年間（1570～1573）は矢野藤平などの矢野一族が居城とし、一色氏と細川藤孝に属した高橋氏が矢野氏の没落後に入城。主君細川氏が九州に移封後、高橋氏は帰農したとしている。

